

令和2年度 第1回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

開催日時: 令和2年7月9日(木)午後6時30分～
 会場: ウェルス幸手 2階研修室
 出席者: 32人 事務局: 5人
 司会: 杉戸町高齢介護課 新堀主査

1. 開会

2. あいさつ 幸手市介護福祉課 小池課長

資料の確認

今年度新規に委員になられた方の紹介(敬称略)

杉戸町医師会 鈴木英二、幸手市介護支援専門員連絡協議会 亀田純子、在宅医療連携拠点「菜のはな」姜世暲、上田由美子が新規の委員となる。

3. 令和2年度事業計画について 資料「令和2年度 北葛北部在宅医療・介護連携推進事業計画(案)」

幸手市介護福祉課
関森主査

資料の事業計画(案)について説明を行う。
 この事業は幸手市と杉戸町の共同で北葛北部医師会に委託し、連携して行っている。
 北葛北部在宅医療・介護連携推進事業については事業計画(案)の表面左の欄における、ア、イ、ウ、エ、オ、カ、裏面のキ、クの合計8つの事業項目を実施することで進めてきている。
 今年度の重点としての取り組みは、これまでに、推進会議でいただいたご意見やケアカフェ等の活用により現状と課題として挙がってきている次の4つの項目を考えている。

- 1 認知症対応
 地域で生活する人が認知症であっても同様に生活できるようになるための視点をもって、認知症の方やケアをする方への支援体制を考えていくこと。
- 2 終末期対応
 最期まで自分らしく、その方が望む終末期を実現するため、人生の最終段階だけでなく(地域でどう生きていきたいかという)地域づくりを含め、在宅医療・介護連携支援を考えていくこと。
- 3 入退院支援
 切れ目のない在宅医療介護の提供体制の構築に向けて、医療介護関係者で共有できるものを作成していくこと。
- 4 在宅医療体制の構築に向けた連携
 在宅医療をされている先生方とのカンファレンスを通し、切れ目のない在宅医療の提供体制の構築に向けた連携を図っていくこと。
 ケアカフェでの研修会やグループワークなどの協議を通して実施していくことを計画している。

令和2年度 第1回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

<p>中野議長</p>	<p>入退院支援について、資料1-3の医療と介護の切れ目ない連携を目指して(案)の埼玉県入退院支援ルールと記載されている資料をご覧いただきたい。まずは、ケアマネジャーと入院医療機関との情報共有が必要である。ときには、医療と介護の関係者がスムーズに連携していくことが難しい場面もあると思うが、お互いに連携していくことが重要である。</p> <p>ご本人・ご家族への入退院支援ルールの周知方法として「通院・入院時あんしんセット」の準備が必要である。また、ケアマネジャーは日常的に、ご本人・ご家族に対して、入院したときはなるべく早く連絡していただけるようお願いしておくことが必要。</p> <p>入退院支援については、令和2年度入退院支援の留意点(仮称)の5点を主に注意しながら進めていくことになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病院とケアマネは相互に連絡先と相談窓口を明記し、リスト化の上共有する。 2 入院医療機関は入院した場合、必ず一度はケアマネへ連絡する(ケアマネはかかりつけ薬剤師へ連絡を)。 3 ケアマネは通院・入院時安心セットの説明を必ず行う(医療と介護保険証・ケアマネの名刺・お薬手帳・とねっとカード)を利用者へ渡す(チラシを作成)。 4 相互の事情を理解する為に入退院支援マナー・エチケットの冊子を作成。 5 入退院支援に関するトラブルが発生した場合の対応は在宅医療拠点へ連絡。
<p>4. 新型コロナウイルス感染症対策における地域の影響について 資料「緊急アンケート調査結果(中間報告)」</p>	
<p>中野議長</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、ZOOM等を用いた遠隔のICTを活用している状況がある。メディカルケアステーション(MCS)を活用した情報提供を行っている。</p> <p>今回、緊急アンケート調査においては、幸手市及び杉戸町に所在するデイサービスやショートステイ、入居施設など、訪問介護系事業所以外の通所・入居系の介護施設を対象とした新型コロナウイルスの対策関連の支援ニーズ調査を実施した。支援ニーズ調査について、上田さん説明をお願いします。</p>
<p>菜のはな 上田氏</p>	<p>通所サービスから、訪問サービスに切り替えた方々がいることが分かった。また、杖歩行の方がシニアカー利用になった人もいた。</p> <p>認知機能の低下で、表情から笑顔が消えた。</p> <p>デイサービスを再開したが、パニックを起こした方もいた。</p> <p>介護サービスの再開については半日から始めていくという声を聞いた。</p>
<p>中野議長</p>	<p>今後は利用控えをされることが続くと、もしかしたら認知機能の低下につながるかもしれない。</p> <p>未だ70%程度しかサロンの参加者数は回復していない。</p> <p>再開が遅れるとDVや危機的な状況等につながる恐れもある。中田さんいかがですか。</p>
<p>東地域包括支援センター 中田氏</p>	<p>DVや危機的な状況であるという連絡はないが、入所している方の配偶者で在宅の人のADLが落ちている。</p> <p>入所施設に通うことがその人の日課になっており、通うことが出来なくなると、今後も影響が出てくると考えている。</p>
<p>中野議長</p>	<p>法テラス福井先生、今回の自肅要請や行政と市民活動との関係を、特措法の観点よりお話を伺いたいのですが。</p>
<p>法テラス 福井弁護士</p>	<p>特措法についてのメインは都道府県であります。</p> <p>市町村が独自に施設の制限をすること等は考えにくい建付けの法律である。</p> <p>現実的に埼玉県独自の政策を進めている状況ではない。</p> <p>今回のように、新型コロナ対策が必要な一方で、市町村が市民活動に深く介入することは決して好ましいことではない。</p> <p>今後は市町村単位で状況を考慮しながら、地域の声を都道府県に挙げていく必要があると考えている。</p>
<p>北葛北部医師会 瀬川医師</p>	<p>現在、PCR検査を行うに当たっては、コロナにおける感染により、母子共に負担となることが考えられることから、医師会として、母子に負担にならないようにするため気を配っているところである。</p>

令和2年度 第1回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

<p>中野議長</p>	<p>地域包括ケアという枠組みは、子供から高齢者まで要援護者を多く扱っており、今後は新型コロナウイルスだけでなく、近年増えている水害を含んだ自然災害への対策についても具体的に話し合っていく必要があると考えられます。 幸手と杉戸の在宅医療、「幸せ杉」と書かれたステッカーを委員のみなさんにお渡ししておりますので、各施設に貼っていただけるとありがたいです。</p>
<p>5. 認知症初期集中支援チーム検討委員会について 資料「認知症初期集中支援チーム員活動」</p>	
<p>北葛北部医師会 山根医師</p>	<p>認知症初期集中支援は、地域包括支援センターの仕事と認知症初期集中支援の仕事を同時に行い選別していくことが必要となる。 相談数は、幸手市は約50件／月、杉戸町は約20件／月となっている。 最初のケースは60歳の世帯である。近所の方から包括に情報が入ったことからの介入となった。その後、精神科病院と連携し入院に繋がった。 初期集中として実態把握から入るも、状況から包括支援としての介入になった事例、物忘れ外来から精神科病院へ繋げた事例、警察に保護されてから関わった事例、精神科病院を中断していたケースを支援した事例があった。 認知症総合支援として、アセスメントツールの帳票は提出必須とはしないこととした。 認知症対応の取り組みとしては、幸手市内のグループホームに認知症ケア相談室の設置を行っている。</p>
<p>中野議長</p>	<p>地域包括支援センターから市へ何か意見や要望があればお願いします。</p>
<p>西地域包括支援センター 金子氏</p>	<p>常日頃、山根先生のご協力のもと、認知症に関わる事例についての相談業務を進めています。</p>
<p>情報共有</p>	
<p>中野議長</p>	<p>本日の議事はこれで終了となる。</p>
<p>杉戸町高齢介護課 新堀主査</p>	<p>連絡事項。「超簡単 おうちで楽しく介護予防」の冊子を委員の皆さんにお配りしておりますのでよろしく申し上げます。 次回の会議は令和2年12月を予定している。</p>